

平成 26 年度スマートウェルネス住宅等推進モデル事業 一般部門採択事業

『高齢者の役割と生きがいを創造する』生活支援モール米沢駅前

平成 30 年 10 月時点における中間報告書

はじめに

『役割と生きがいを創造する』という企業理念を掲げ、株式会社スマートライフを立ち上げてから4年以上が過ぎました。「『高齢者の役割と生きがいを創造する』生活支援モデル米沢駅前」という提案で、平成26年度スマートウェルネス住宅等推進モデル事業に採択して頂き、心地よい操業のスタートを切ることができましたが、その後は困難の連続で、順風満帆とは到底言う事が出来ない創業期が続きました。一向に増えない入居者、各事業所で伸び悩む売上、それに伴う大幅な事業計画との乖離、、、。それでも、決して『理念』を手放すことなく仲間達と歩んできた結果を本報告書に纏めさせていただきます。

第1章では、提案時の事業背景と事業概要をそのままの形で紹介し、その後現時点での実施事業を、提案時との変更点を含め簡単に纏めています。第2～5章では、実施済み事業所の数値的な纏めをまずは記載し、その後特筆すべき内容を数点に纏めています。第6章では、各事業所における実績とそれぞれの事業所のシナジー効果を成果として纏め、最後に第7章で現状の課題と今後の展望について纏めています。

実際の営業が開始して二年半が経過し、ようやく事業運営も安定しつつあります。そんな創業期を脱するプロセスの中で、新たに見えてきた社会課題があるのも事実です。提案内容中未実施の事項もさる事ながら、それらの課題に弊社は何を成すことができるかを考え、今後の運営に臨んでいきます。

株式会社スマートライフ
代表取締役 酒井 登

目 次

第1章 事業実施に至る背景と提案概要	
1. 課題認識から見る事業実施に至る背景（提案時）	
2. 提案概要（提案時）	
3. 現時点における実施事業	
第2章 サービス付き高齢者向け住宅「リブウェル」	
1. 数値データ	
2. 『役割と生きがいを創造する』を体現した入居者事例紹介	
3. 特徴的イベント	
4. 入居者懇談会と入居者様への回答書	
第3章 自立支援型デイサービス「スマート倶楽部」	
1. 数値データ	
2. サークル活動の導入	
3. お客様主導のイベントの開催	
4. 米沢市との事業連携	
第4章 ホットヨガ&メディカルフィットネス「ジル米沢」	
1. 数値データ	
2. 企業向け外部指導	
3. 市内S病院との連携	
4. 米沢市からの委託事業	
第5章 居宅介護支援事業所「かいごの窓口」・スマートライフ訪問介護事業所	
1. 居宅介護支援事業所「かいごの窓口」	
2. スマートライフ訪問介護事業所	
第6章 これまでの成果	
1. 事業所ごとの成果	
2. 事業所間の連携による成果	
第7章 現在の課題と今後の展望	
1. 現在の課題	
2. 今後の展望	
3. 終りに	

第 1 章

事業に至る背景と提案概要

1. 課題認識から見る事業実施に至る背景（提案時）

提案申請時、事業実施の背景として以下の4つの課題認識が挙げられた。

（ここから提案申請書より抜粋）

課題①：介護者の増加と介護予防

平成22年4月時点で、米沢市は総人口88,156人に対して要介護認定者が凡そ4,000人（高齢化率25.6%、認定率17.8%）であった。これが平成26年4月時点で、要介護認定者数は4,536人（高齢化率27.6%、認定率19.3%）と急激に増加しており、それに伴った介護度の重度化にも歯止めをかける事が出来ておらず、共に深刻な問題となっている。

要支援認定者やまだ認定を受ける前の高齢者が、社会との接点を通して「役割と生きがい」を持ち続けていく事が大切であると考えます。しかしながら、それを見出す場が生活の身近にない事が課題となっている。

課題②：「我が家」としての選択

現在の高齢者向け住宅や居住型介護施設の多くは、最終最後の場所として存在しており、そのため介護度の重度化が進んだ方や、手厚い医療サービスを必要とする方が入居されている。よって、自身で選択する終の棲家とは趣が異なっている。

永く自立生活が継続でき、加齢と共に必要となる支援を受け続ける事が可能な、「我が家」がない事が大きな課題である。

課題③：高齢男性の介護予防

一般的な介護施設をみると、利用者の男女比は凡そ2:8~3:7と女性の比率が多く、そもそもの男性利用者が少ない。加えて男性利用者は、往々にして施設内での時間を一人で過ごしている事が多い。それは、女性は共感の文化（共感脳）であるのに対して男性は競争の文化（競争脳）と言われる事に起因していると考えられる。

現在の施設の多くはその違いを理解した上で、レクリエーション等のサービスを展開していない為、男性の多くは足が遠のき、孤立し、孤独感を抱えながら介護度も重度化しているのだと考えている。男性も足を運びたくなる様なサービスを展開している場がないのが課題である。

課題④：高齢者の生活圏の確保

豪雪・郊外型店舗配置の中小都市では、運転をあきらめた高齢者の生活が単独では成り立たない時代になっている。中小都市では公共交通機関が発達しておらず、車がなくては生活が成り立たない。米沢市も同様である。よって、高齢者は車の運転が出来なくなると同時に、生活も成り立たなくなり、社会との接点を閉ざされる要因となっている。つまり、高齢者にとって徒歩圏での生活が成り立たない事が課題である。

（ここまで提案申請書より抜粋）

2. 提案概要（提案時）

「1.」の課題認識の基、提案された事業概要が以下の通りである。

（ここから提案申請書より抜粋）

『高齢者の役割と生きがいを創造する』生活支援モール米沢駅前」は、「行きたい」から「生きたくなる」場所の提供を目標に掲げ、施設整備と運営を行う。本提案事業は、その第一期計画として、以下に詳細を記す2つの高齢者向け施設と子育て支援施設に着手するものである。

① 『我が家』～サービス付き高齢者向け住宅～

方針1：「自宅」感

人生の節目には新居が必要である。高齢期という節目に選んで頂ける「自宅」として、我が家のおいがする住居の提案を目指す。

方針2：「ご近所」感

我が家と言えばご近所さん。家族に次ぐ社会性の基本である。持ちつ持たれつの関係を保つ事で、人間味のある住環境を提供する。

方針3：人が集う

自慢の我が家として、友人、子供、孫等が集いやすい環境を整える。

サービス1：現住居の再現

入居者のこれまでの住いを参考に、思い出の一部を取込んだり、今迄慣れ親しんだ家具等をそのまま使って頂く事で、その家のおいを再現する。

サービス2：入居者同士の繋がりへの支援

共有スペースである食堂、浴場、多目的ルームの充実をはかり、入居者が集まれる場所の提供を行う。また、場所の提供だけではなく、入居者が集まる為の理由作り（サークル活動等）を積極的に行う。

サービス3：訪問者の誘致

現実的には、入居者に会いにくと言う理由だけでは、訪問頻度は上がらない様である。そのため、入居者の家族や友人が集うイベントやその方々が交流できるカフェを設置し、遊びにいきたい動機づくりを行う。

② 『俺の休日』 ～大規模自立支援型デイサービス～

方針１：自主性と自由度の尊重

過剰介護・過剰サービスから脱却して、利用者がその日の活動を定め、介護者はその補佐に徹する。利用者目線の確立と、介護者が本来なすべき自立支援業務に集中する事を目指す。

方針２：残存能力を活かした自立の実現

利用者個人の状況を把握し、自立生活を続ける為のプランと目標の設定を行い、リハビリ活動の意義を明確に定める。また、サークル活動をメインとした活動内容とし、これを通して社会との繋がりを持ってもらう。これらの事により、身体的・精神的自立を維持し続けて頂く。

方針３：男目線

男目線を盛り込んだ設備を充実させると共に、競争脳を刺激する要素を活動の中に取り込み「行きたい」場所作りを行う。

サービス１：利用者の徹底した状況把握から立案する「自立プランの設定」

利用者の残存能力と、生活圏の調査を徹底して行い、その方が自立の為に必要となる事項を目標として設定し、その目標達成の為のプランを提供する

サービス２：利用者の趣味趣向を考慮したサークル活動の支援

サークルの立ち上げと利用者のマッチングを支援し、全利用者に必ずサークルでの活動に参加して頂く。また、持ち回りでの催事開催をして頂き、その際の人的・物的・費用的支援を行う。

サービス３：自ら定めた日々の活動の見守りの支援

利用者には一日の始めに、その日の活動を自ら定めて頂き、それらの活動に必要な見守りや介護の補助を提供する。

尚、子育て支援施設は、①敷地内の利用が高齢者に偏らない事、②高齢者が子供達と接する機会をつくる事、③介護職員が働きやすい環境を整備する事、を目的として第一期計画に組み込む。

(ここまで提案申請書より抜粋)

また、提案書の中では上記の事業概要における、その先導性として以下の項目が挙げられた。

(ここから提案申請書より抜粋)

①療法士の視点から、サークル活動を通して高齢者が社会的役割を持ち続け、それを生きがいに繋げていってもらう取組み。

③ 介護事業指定に必要なスペース以外に数多くのサークルルームを配置する事で、要介護認定者のみならず、全高齢者に向けて楽しめる場所を整備し、介護報酬ありきの経営から脱却する取組み。

③男性目線を取り入れ、男性高齢者が足を運びたいくなる様なサービスを提供する取組み。

(ここまで提案申請書より抜粋)

3. 現時点における実施事業

平成 30 年 10 月時点で株式会社スマートライフでは以下の 5 事業を展開してる。

①サービス付き高齢者向け住宅：リブウェル

「2.」における提案事業中の『我が家』にあたる事業。第 2 章で詳しい内容を記載。

②自立支援型デイサービス：スマート倶楽部

「2.」における提案事業中の『俺の休日』にあたる事業。第 3 章で詳しい内容を記載。

③ホットヨガ&メディカルフィットネス：ジル米沢

提案事業には含まれていない事業。地域の健康増進と長い目で見た介護予防の観点から『役割と生きがい創造する』と言う理念に基づいて事業実施に至った。現在では、第 4 章で紹介する市の受託事業を行うだけでなく、リブウェルやスマート倶楽部との効果的な繋がり(第 6 章に記載)も出てきている。

④居宅介護支援事業所：かいごの窓口

提案事業には含まれていない事業。介護の相談の第一報を受ける事ができる事業所を目指すと言う方針で開所に至る。地域とリブウェルの入居者様の安心を提供するだけでなく、将来は本当の意味での自立に向けたケアプランの実施を行っていくと言う方針で運営をしている。第 5 章に記載。

⑤訪問介護事業所：スマートライフ訪問介護事業所

提案事業には含まれていない事業。リブウェルの入居者、並びに入居検討者からの将来の不安の声を解消するために開所に至る（実際は、過去も現在もリブウェルの入居者で外部のヘルパーさんを利用されている方もいるが、すぐそばに相談できる所がほしいと言う声が強かった）。リブウェルの入居者だけでなく、地域の方々へのサービス提供も当然行っていくと共に、将来は今後どのようにして企業理念を訪問介護で実現していくかが課題となる。第 5 章に記載。

尚、提案事業に含まれる子育て支援事業は未だ実施に至っていない。主な要因としては、①既存開設事業の安定的運営に時間がかかってしまった事、②「①」に伴い財務的に実施可能な事業に限られている事、③未だ企業理念に沿った形の事業に出会えていない事、が挙げられる。今後の取扱に関しては、第 7 章で詳しく触れていく。

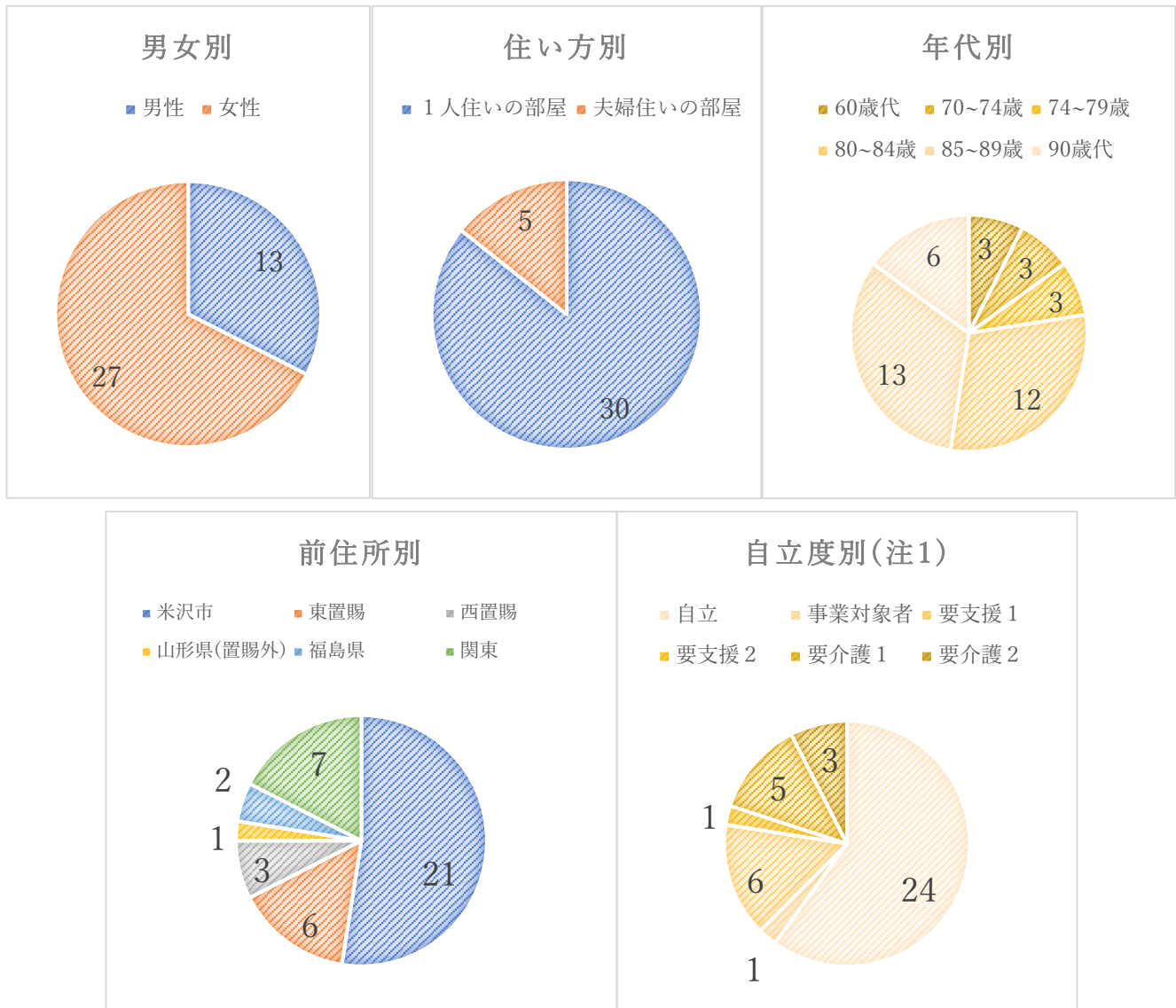
第 2 章

サービス付き高齢者向け住宅

「リブウェル」

1. 数値データ

平成 30 年 10 月現在の入室数は 35 室(38 室中)、入居者数は 40 名である。以下に主なデータを記載する。



また、上記 40 名入居者中 7 名が自社フィットネスジムの利用者であり、上記「自立度別」のグラフで表されている要支援・要介護者の利用サービスは以下の通りである(注 1)。

通所介護利用者数：5 名(全て自社サービス)

訪問介護利用者数：3 名(内 2 名が自社サービス)

福祉用具利用者数：1 名(他社サービス)

訪問看護利用者数：1 名(他社サービス)

注 1：他社の居宅介護支援事業所を利用している入居者が数名おり、その方々の詳細は不明。

以下ではリブウェル営業開始から現在までの入室数の推移と退去に至った方に関する情報を記載する。

【入室数推移表】

2016 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
1人部屋(30 室中)	3	3	3	4	5	6	7	7	8	8	8	9
2人部屋(8室中)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
計(38 室中)	4	4	4	5	6	7	8	8	9	10	9	10
2017 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
1人部屋(30 室中)	10	10	10	11	14	14	17	18	16	17	17	16
2人部屋(8室中)	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	7	7
計(38 室中)	11	11	11	13	16	16	19	20	19	20	24	23
2018 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月							
1人部屋(30 室中)	21	22	23	25	27							
2人部屋(8室中)	7	7	7	8	8							
計(38 室中)	28	29	30	33	35							

上記運営期間中の退室数は 6 室(計 7 名)おり、退去理由は以下の通り。

死亡による退室：1 室(計 2 名)

他施設への入所：2 室(計 2 名)

医療機関へ入院：1 室(計 1 名)

冬季館のみ入居：2 室(計 2 名)

2. 『役割と生きがいを創造する』を体現した入居者事例紹介

村田 ひろ子 様(79 歳) (仮名)

初回問合せ：2017 年 9 月 2 日

契約日：2017 年 9 月 19 日

入居日：2017 年 10 月 17 日

「役割と生きがいを想像する」という理念を掲げる弊社にとって、サービス付き高齢者向け住宅「リブウェル」にて特筆すべき事例がある。以下は、その入居者への聞き取りをもとにまとめたものである。

【田村様への聞き取り(まとめ)】

リブウェルへ問合せるまで、他の施設を色々見学してきたが、どこも自分にあった生活を送ることが難しいと思われるところばかりだった。リブウェルへの入居については、今までの人生の中でも大きな決断の 1 つだったが、結果として入居して大変良かったと思っている。私がリブウェルへ入居した理由としては、「自分に合った生活」ができるのではないかと考えたことが 1 番の理由となる。介護施設に比べて自由度が高い生活、バス・トイレ・キッチン付きで広い居室(生活)スペース、館内の内装も他の介護施設と比べ高級感があり気に入ったことなどが主な理由だった。

また、併設施設にデイサービス(スマート倶楽部)があり、自分のもっている看護師としての資格を生かして週 2 日～3 日職員として勤務する生活を送っている。正直、この年で仕事ができる事に生きがいを感じている。それ以外にもボランティアとして、デイサービスの利用者とも麻雀やカラオケなどで交流を深めることが出来ている。

リブウェルでは、毎日 9 時から入居者を対象としてラジオ体操を行っているが、体操の後の入居者同士のティータイムも楽しみの 1 つ。入居者も増えてきたため、年上・年下に関わらず様々な方々と話をする機会があるのは独居では考えられないこと。また、気の合う方々と時には外食し、外出(外泊)もしている。また、リブウェルスタッフの方が計画するイベントにも参加し、特にみんなで出かける外出ツアーが楽しみ。

リブウェルでは基本サービスとオプションサービスがあるが、基本サービスの中には医療機関への送迎のサービスがある。協力医療機関(内科・歯科・眼科)への送迎を追加料金なしで対応してもらえるほか、スタッフが 24 時間/365 日常駐しているので、体調不良時や転倒時などの緊急事態(リスク)を考えると、非常に心強い。スタッフの方には非常に感謝しているし、リブウェルへ入居して生き生きした生活を送ることが出来てすごく幸せ。

2. 特徴的イベント

① 花火鑑賞会&カクテルバー

あくまで「住宅」という観点から、高齢者施設とは一線を画した催し物をする事で、入居者にも人生を謳歌していただくことができるように平成30年7月30日(月)に開催される米沢の花火大会に合わせて「花火鑑賞会&カクテルバー」を開催した。今回、初の試みとして「カクテルバー」を設置、お酒を楽しみながら花火を鑑賞するという形で企画・運営を実施した。

ビール・ウィスキー・焼酎・カクテルなどお酒が好きな方はもちろん、お酒を飲めない方へノンアルコールカクテルを準備、雰囲気を楽しめるようにした。初めてカクテルを飲む方も、昔よく飲んだ方もみんなで会話を楽しみながらの鑑賞会となった。



② 外食ツアー

高島町のフレンチレストラン「フルール・ド・ソレイユ」へランチツアーを企画し、入居者 17 名、スタッフ 4 名で行ってきた。ランチメニューで肉か魚を選択でき、普段はあまりなじみのない「フランス料理」に、皆さま大満足いただいた。また、帰りには山形の季節の果物であるぶどうを買い求める姿もあり、秋晴れの中の小旅行を楽しんでいた。また、秋晴れの中の小旅行を楽しんでいた。



③ 雪ぼんぼり

ここ米沢市では 2 月に「上杉雪灯籠まつり」という、米沢を代表するおまつりがあり、地元出身の方も多く入居されているが、その時期は雪が多く天候も荒れやすいため、実際に雪灯籠まつりに出向くことは困難である。そのため、リブウェルにいながらでも少しでもその雰囲気を味わっていただこうと、雪灯籠まつりが開催されるタイミングで「雪ぼんぼり」を作成した。夕食時にレストランの照明を暗くして、レストラン南側窓の前に広がるキレイな灯りで、いつもと違う幻想的な雰囲気を楽しんでいた。

米沢の住人にとって、雪は生活を困難にするものでもある。しかし、このようなイベントを開催することで雪を、米沢の冬を少しでも楽しんでいただくため、季節の催し物として来年以降も続けていきたい。



④ 食事イベント「シェフの特製メニュー」

リブウェルでは月に2回、厨房の担当者と「シェフの特製メニュー」を企画している。季節の食材や入居者のご要望を取り入れ、いつもよりちょっと豪華なメニューを提供している。この日ばかりは、いつも自炊される入居者もお食事を申し込まれ、レストランは大賑わいとなる。

当然、栄養管理された食事は健康を維持するためには必要不可欠ではあるが、おいしい食事を楽しく食べることも生きがいは重要であると考える。

【メニューの一例（写真は実際に提供したもの）】



会津名物ソースカツ丼



さっくりエビフライ



牛すじトロトロ夏野菜カレー



温玉のせびピンバ



蕎麦御膳

4. 入居者懇談会と入居者様への回答書

2018年8月26日に第2回の入居者懇談会を開催した。22名の入居者・ご家族に参加いただいた。代表の酒井のあいさつの後、マネージャーの杉森よりリブウェルの現在の状況(入居状況、職員体制、サービス提供状況、イベント活動報告)を報告させていただいた。その後、質疑応答として入居者の方よりたくさんのご質問・ご要望をいただいた。

頂いた質問については、リブウェルにて取りまとめを行い、後日回答書を作成し、入居者全員へ配布させていただいた(添付資料：01_入居者懇談会への回答)。また、特にご要望が多かった点については具体的に対策案を検討し、対応している。

リブウェルはオープンより約2年半が経過し、ほぼ満室の状態となってきている。入居者が増えたことにより、様々なご意見・ご要望をいただくようにもなっており、少しずつではあるが、更なる快適な生活空間を目指してスタッフ一同これからも取り組んでいく。

第 3 章

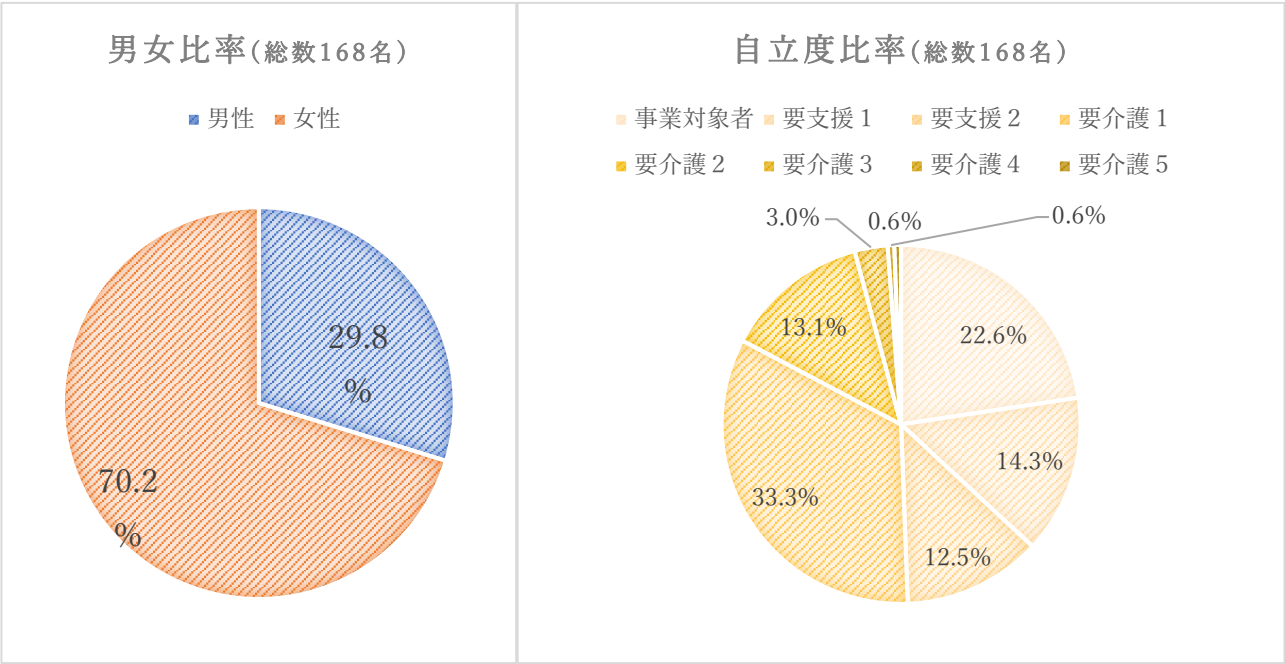
自立支援型デイサービス

「スマート倶楽部」

1. 数値データ

平成 30 年 9 月期におけるスマート倶楽部の登録者数は 168 名で、延べ利用者数で 1017 名(通所介護、総合事業での午前コース(25 枠)、午後コース(25 枠)、1 日コース(20 枠)の総利用者数)であった。

以下に、9 月期の男女別、自立度別のグラフを記載する。



以下は平成 30 年 6 月から 9 月までの 4 ヶ月間の利用実績をコース別、サービス別に纏めた表である。

【延べ利用者数に対する利用コース・サービス数の割合表】

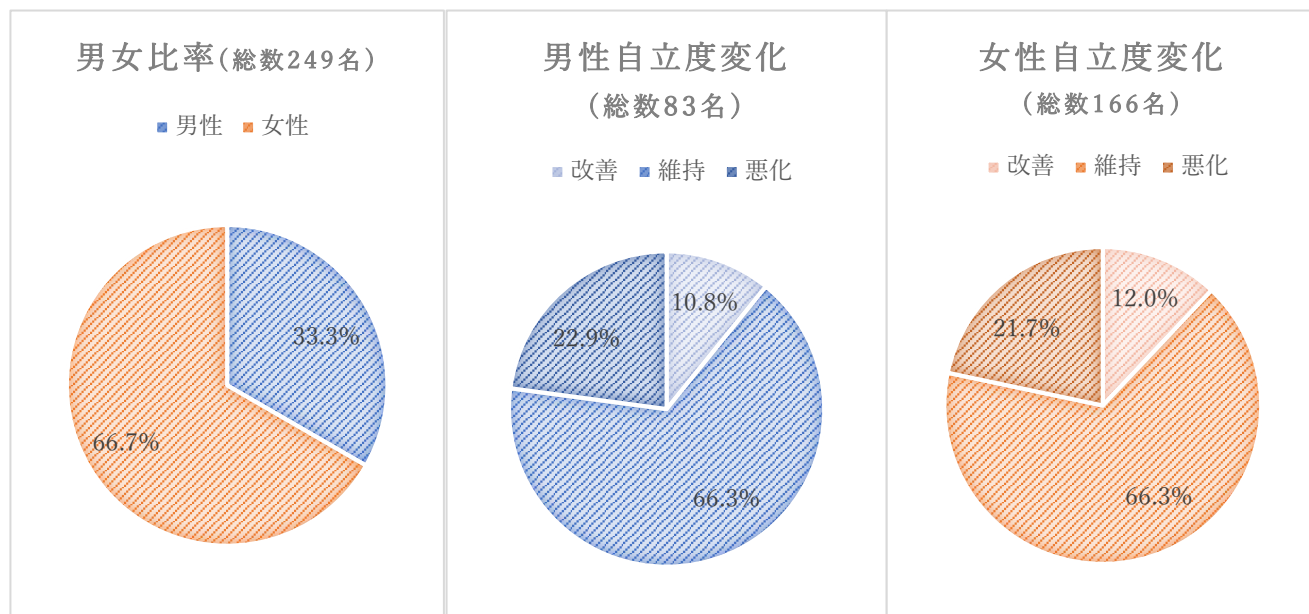
期間		午前コース利用		午後コース利用		1 日コース利用		一般浴利用		食事利用	
2018 年	延人数	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
6 月	948 人	432 人	45.6%	145 人	15.3%	371 人	39.1%	519 人	54.7%	727 人	76.7%
7 月	1010 人	462 人	45.7%	143 人	14.2%	405 人	40.1%	610 人	60.4%	788 人	78.0%
8 月	1056 人	486 人	46.0%	160 人	15.2%	410 人	38.8%	637 人	60.3%	800 人	75.8%
9 月	1017 人	465 人	45.7%	169 人	16.6%	383 人	37.7%	610 人	60.0%	737 人	72.5%

以下は、スマート倶楽部営業開始から現在までの登録者数の男女別推移を表した表である。

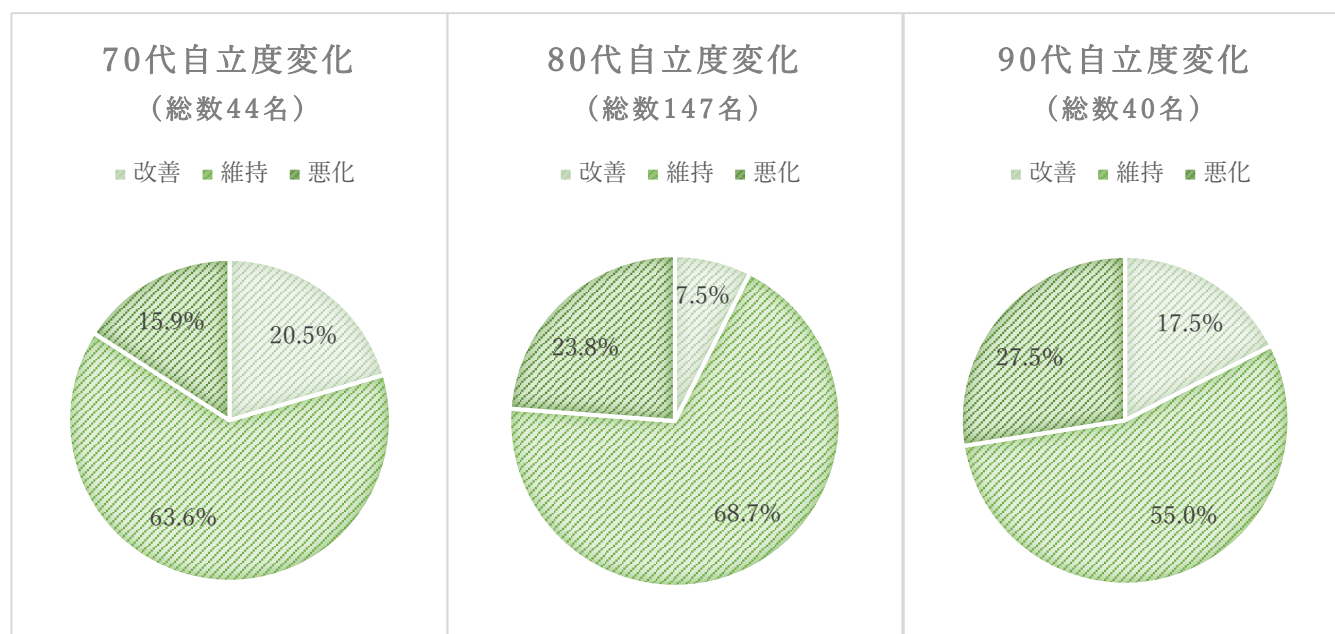
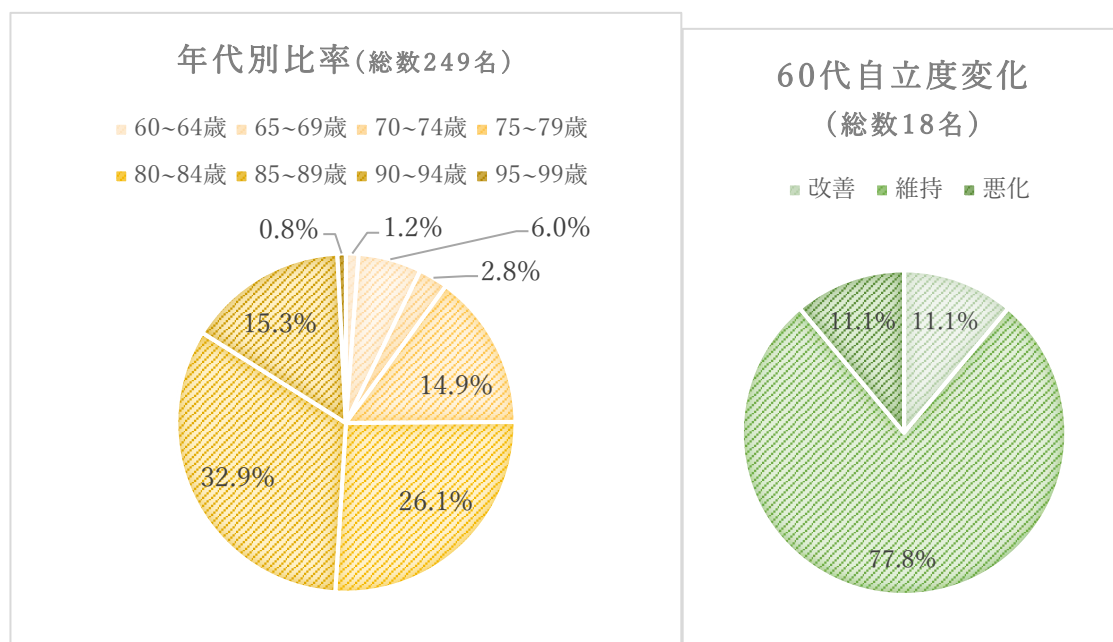
【男女別登録者数推移表】

2016 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
男性	4 人	6 人	9 人	13 人	16 人	18 人	18 人	16 人	16 人	17 人	21 人	23 人
女性	13 人	15 人	19 人	22 人	28 人	30 人	35 人	39 人	36 人	42 人	51 人	57 人
計	17 人	21 人	28 人	35 人	44 人	48 人	53 人	55 人	52 人	59 人	72 人	80 人
男性率	23.5%	28.6%	32.1%	37.1%	36.4%	37.5%	34.0%	29.1%	30.8%	28.8%	29.2%	28.8%
2017 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
男性	25 人	30 人	30 人	37 人	40 人	44 人	45 人	44 人	44 人	45 人	47 人	44 人
女性	62 人	68 人	70 人	72 人	83 人	79 人	78 人	77 人	79 人	89 人	98 人	100 人
計	87 人	98 人	100 人	109 人	123 人	123 人	123 人	121 人	123 人	134 人	145 人	144 人
男性率	28.7%	30.6%	30.0%	33.9%	32.5%	35.8%	36.6%	36.4%	35.8%	33.6%	32.4%	30.6%
2018 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
男性	43 人	43 人	48 人	50 人								
女性	109 人	106 人	112 人	118 人								
計	152 人	149 人	160 人	168 人								
男性率	28.3%	28.9%	30.0%	29.8%								

以下は、現在までスマート倶楽部を利用された全登録者 247 名の男女比と、男女別の自立度の変化(介護度の変化を「改善」「維持」「悪化」に分類)を表したグラフである(途中で利用停止になられた方はスマート倶楽部利用時の期間における変化であり、利用停止後の自立度の変化に関しては不明)。



以下は、現在までスマート倶楽部を利用された全登録者 247 名の年代比(平成 30 年 10 月現在の年齢で分類)と、年代別の自立度の変化(介護度の変化を「改善」「維持」「悪化」に分類)を表したグラフである(途中で利用停止になられた方はスマート倶楽部利用時の期間における変化であり、利用停止後の自立度の変化に関しては不明)。



2. サークル活動の導入

スマート倶楽部では、多数のデイサービスが導入している、いわゆる「レクリエーション」と呼ばれる活動は実施していない。お客様一人一人が、今までの自身の生活歴を生かした活動ができるよう、完全選択制の活動を行ってきた。これが、スマート倶楽部という「サークル活動」である。

「今日はみなさんでこれをしましょう。」という画一的な活動の提供でなく、クラフトバンドを使用したカゴやバッグ制作、麻雀、将棋などのボードゲーム、書道、グランドゴルフといった数ある活動の中から、皆さんがやりたい活動を選択して、共通の趣味・関心を持つメンバーと共に活動に取り組む。これにより、メンバー間のコミュニケーションが取りやすくなり、会話も増え、交流の機会が自然と確保できる。また、自身の興味がある活動のため、「やらされている」といった感覚を持ちにくいうえ、活動に対する意欲も高い水準で維持することができると考えている。以下に、サークル活動における成功事例を紹介する。

① 麻雀サークルにおける自主性

麻雀サークルに所属して活動を楽しんでいるお客様から、「長方形のテーブルは使いにくいし、何より麻雀の雰囲気を出すために、麻雀卓を購入してほしい。」というご要望が挙がった。そこで、麻雀サークル代表のA様とスマート倶楽部スタッフで購入稟議書を作成し、社内の採算表会議にて承認を得た。

その結果、スマート倶楽部麻雀サークルの備品として、麻雀卓を設置することができ、今ではメンバーも増え、多い日には麻雀メンバーが2セット分組めるようになった。

備品の贈呈式をお客様発信で開催したり、メンバーを自主的に募るようにしたりするなど、各々が役割を持ちつつ、生きがいに昇華しはじめられているいい兆候が見て取れる。



麻雀サークルの様子

② 男性利用者の積極的活動参加

男性は女性に比べて、「デイサービスの利用に対して後ろ向き」「活動に消極的になりがち」「仕事を手放してから内向的になりがち」といったイメージを持たれることが多い傾向にあるが、スマート倶楽部をご利用くださっているお客様では、男性も活発に活動参加できている。

上記の成功事例を踏まえつつ、今後のサークル活動の展望としては、サークル内のつながりを超え、サークル同士のつながりを持てるよう活動規模を拡大していくことにある。

例えば、農園サークルの方々が育てた野菜を使って、料理サークルの方々が料理を作るといった複数のサークルが協力して成果を生み出す活動に持っていくことである。料理サークルとしてはメンバー外のお客様に振る舞って喜んでいただくことで、外部に対する成果を生み出すことができる。



料理サークルの様子

さらに農園サークルの方々にとっては、自分たちの育てた野菜が他者の喜びに活かされているという経験を積むことができる。つまり「誰かと協力して正の成果を生み出す」という体験を得ることができる。

このように、サークル活動同士がつながりを持つことで、今よりもさらに「役割と生きがいの創造」を体現できると考えている。

3. お客様主導のイベントの開催

スマート倶楽部では9月に「スマート倶楽部祭り」を開催した。実際にお客様から「お祭りといえば」をテーマに、お祭りでやってみたいことをヒアリングし、「盆踊り」「屋台」「カラオケ大会」「ビアガーデン」などの項目を企画に盛り込んだ。

今回の祭りでは、職員だけが店舗スタッフとして企画を運営するものではなく、お客様(希望者)にも実際に屋台に入ってもらい、スタッフとして運営側に回っていただいた。特に屋台では、焼きそば調理や焼き鳥調理などをお客様にお願いし、職員は調理補助を行った。



スマート倶楽部祭りの様子

ご自分たちが調理した商品が店頭に並び、それを一般客の方々が購入していく様子を見て、お客様からも「私たちも意外とできるもんだね。」と自信をにおわせる発言が聞かれた。お祭り終了時には「また来年も手伝うから」や「店員役をやってよかった」とコメントをいただいた。普段は食席に座って会話やTV鑑賞をしている方も、お祭り屋台のなかでは椅子に腰かける頻度も少なく、調理販売を頑張っていた。

スマート倶楽部祭りでは、お客様にお手伝いスタッフという役割を担っていただいたことで、地域との繋がりを獲得できたとともに、ご自身の持つ「残存機能」を再認識していただくことができた。本成功を踏まえて現在「スマート倶楽部文化祭」を企画中である(添付資料：02_スマート倶楽部文化祭企画書(案)_20181014)。

3. 米沢市との事業連携

スマート倶楽部では、米沢市の日常生活支援総合事業・介護予防事業で業務連携を図っている。これは、プレミアム運動コースといい、短期集中的に機能訓練を提供することで、デイサービスなどの介護サービスを利用しなくても生活していける能力を獲得するための事業である。

指導内容は、筋力増強トレーニングやマシントレーニングが主で、自宅でもできる運動を提供し、在宅生活における運動習慣を身に着ける目的もある。現在まで10名以上を担当し、うち7名が運動面だけでなく精神面でも複数項目の状態向上が見られている。

他の3名は期間満了前に利用が終了し、その詳細は、①運動機能の低下ではなく失調症状だったケース(運動コースよりも介護サービスが適当と認められ、利用終了直後に入院)、②在宅生活中に転倒し、受診の結果、運動コースは適当ではなく、介護サービスが適当だと認められたケース、③身体状態に自信がついて、ご自身の意思で途中終了されたケース、となっている。

これらの3名を除けば、いずれも運動によって在宅生活を送るための機能の改善が見られ、期間満了後には地域のコミュニティーセンターなどで行われている介護予防事業に継続して通われているようだ。現在、米沢市内には、プレミアム運動コースを修了した方や、今は元気ではあるものの、介護予防が必要な方に対する社会資源が不足している。

今後スマート倶楽部が乗り出していくのは、この社会資源不足へのアプローチである。近隣の市町村では、短期集中型の運動コースとほぼ同時進行で介護予防が必要な方の受け皿の整備を行ってきた。

スマート倶楽部として地域の方々の役割と生きがいを創造するためには、先に述べた社会資源を整備することが必要と考え、すでに近隣市町村の事業視察や、先進的な事業を展開している他県への視察を検討している状況である。



プレミアム運動コースの様子

今後は「市からの事業委託」という流れから、「市を動かしていく」という流れにシフトしていく動きをとっていく。

スマート倶楽部は、この 2 年半で、250 名を超えるお客様にご登録していただいている。登録までの経路としては、ケアマネジャーからの紹介を受けて利用登録に至った方が半数以上である。しかし中には、ご本人またはご家族が直接来訪され、見学から利用登録につながったケースや、既に利用されているご友人からの勧めで登録を決められたケース、「この活動ができると聞いたから」と利用を決められた方もいる。

このように、スマート倶楽部は、利用に対する目標・目的を持ったお客様から選んでいただけるデイサービスであり、地域と関わり合いを持ちながらサービス展開を行ってきたデイサービスである。

第 4 章

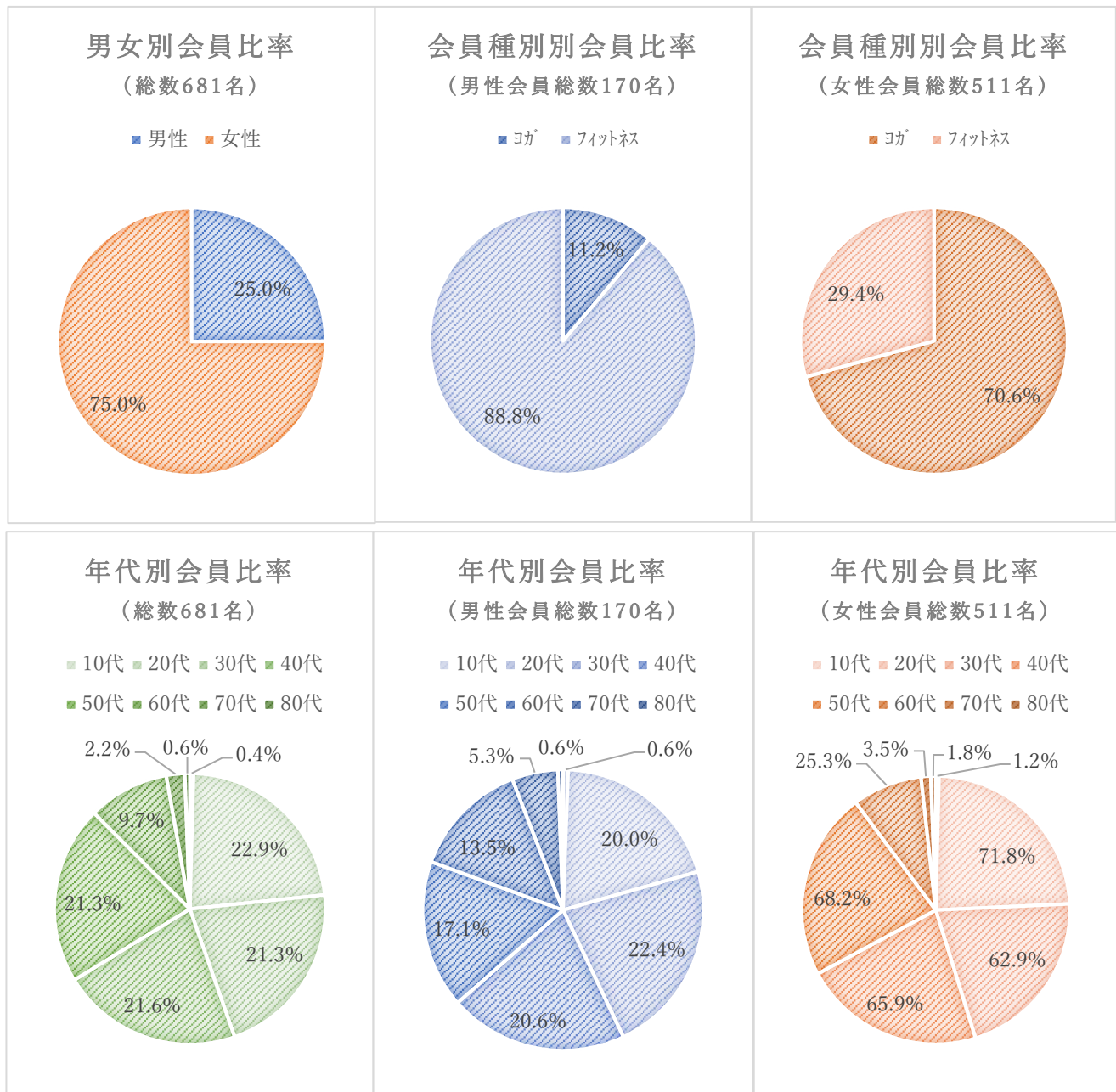
ホットヨガ&メディカルフィットネス

「ジル米沢」

1. 数値データ

平成 30 年 9 月時点におけるジル米沢の個人会員数は 681 名(既に募集を停止しているチケット会員数は除く)、法人会員数は延 68 社で、直近 3 ヶ月間の総来館数は 7633 人となっている。

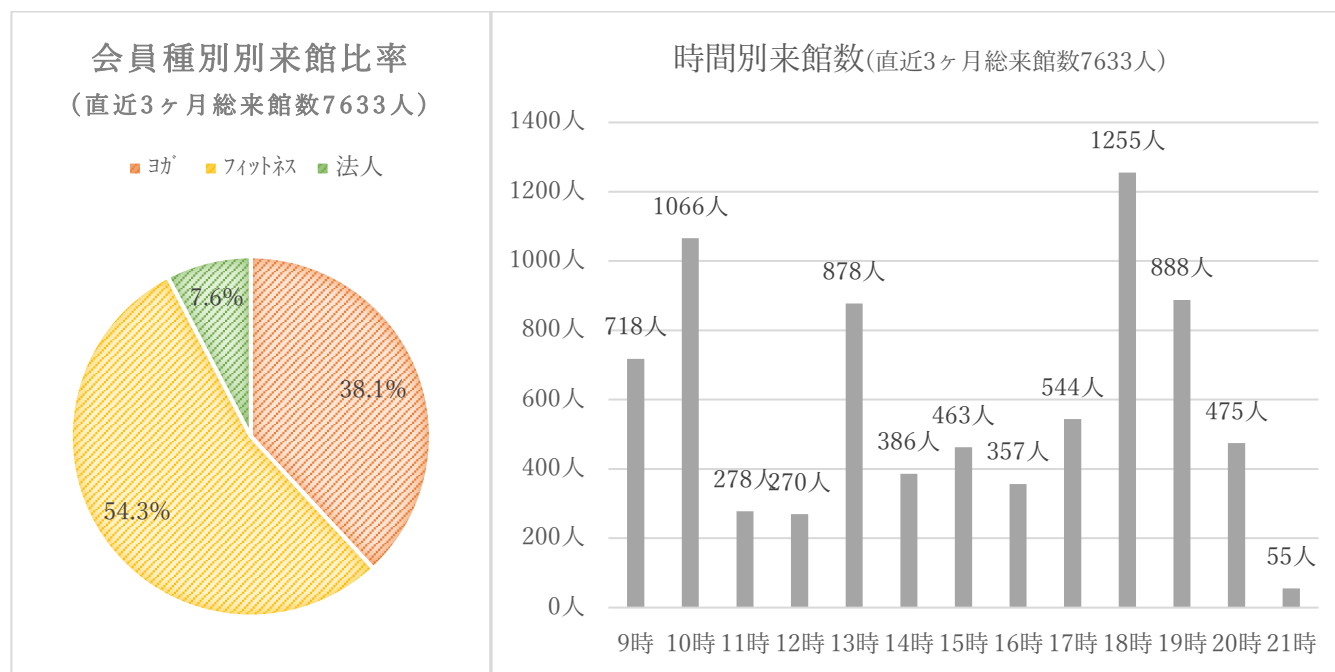
以下に、平成 30 年 9 月時点での男女別会員比率、男女それぞれの会員種別別会員比率、年代別会員比率、並びに男女それぞれの年代別会員比率のグラフを記載する。



以下は、ジル米沢営業開始から現在までの個人会員数を会員種別別に表した表である(チケット会員の募集は2017年3月で終了しているが有効期限内の会員が若干名残っている)。

2016 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
チケット会員数	211 人	234 人	244 人	247 人	253 人	254 人	245 人	220 人	211 人	205 人	48 人	44 人
ヨガ会員数	155 人	156 人	151 人	154 人	153 人	164 人	190 人	225 人	246 人	252 人	272 人	283 人
フィットネス会員数	99 人	102 人	101 人	110 人	119 人	136 人	154 人	171 人	181 人	181 人	185 人	186 人
個人会員数計	465 人	492 人	496 人	511 人	525 人	554 人	589 人	616 人	638 人	638 人	505 人	513 人
2016 年度	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
チケット会員数	38 人	36 人	35 人	34 人	36 人	40 人	40 人	41 人	40 人	40 人	35 人	34 人
ヨガ会員数	286 人	294 人	305 人	325 人	333 人	330 人	330 人	345 人	350 人	352 人	360 人	361 人
フィットネス会員数	196 人	209 人	217 人	225 人	218 人	222 人	227 人	229 人	233 人	238 人	255 人	266 人
個人会員数計	520 人	539 人	557 人	584 人	587 人	592 人	597 人	615 人	623 人	630 人	650 人	661 人
2016 年度	6 月	7 月	8 月	9 月								
チケット会員数	34 人	34 人	33 人	33 人								
ヨガ会員数	379 人	381 人	379 人	379 人								
フィットネス会員数	280 人	286 人	295 人	302 人								
個人会員数計	693 人	701 人	707 人	714 人								

以下に、直近3ヶ月総来館数7633人を会員種別別、来館時間別に分析したグラフを記載する。



2. 企業向け外部指導

現在、米沢近隣の企業に対し、その企業にインストラクターを派遣し、ヨガ・ストレッチ・トレーニングなどの外部指導を実施している。68 社から法人契約をいただき、そのうち 10 社に対しこの事業を行っている。

開始した背景は、運動するきっかけを会社で作っていただくことで運動を普及し、またスポーツジムというものを利用しやすくするためである。健康診断で保健指導の入っている方や予備群と言われる方たちに企業が運動を進める場合も多くあり生活習慣病予防にも運動を取り入れている企業もある。

「健康経営」という言葉があるように、企業における健康の増進は、生産性向上・離職率低下・企業イメージアップなど、様々なメリットがあるとされている。その一端を担う事業として、この企業に対する外部指導を推進している。

米沢市内だけでなく隣の高畠や南陽、また県外（福島県相馬市）などでも外部指導を行い、運動を発信している。



3. 三友堂病院との連携

平成 28 年に市内の三友堂病院と医療提携を結び、2 つの具体的な連携事例がある。

ひとつは、健康診断時の待ち時間を利用して運動するきっかけづくりのために健康講話を実施してほしいとの依頼があり、現在まで継続して実施している。

内容としては肩甲骨のセルフチェックを行い、関節可動域が狭くなっていることに気付いて頂き、肩甲骨周りに効果的なストレッチを紹介し日々の生活に運動を取り入れていただくよう案内するものである。

もうひとつは、三友堂病院における健康診断にて選出された方をモニターとしてジル米沢を利用するというものである。そのモニターの方の中には、8 ヶ月の運動の実施により、様々な数値に改善がみられたという事例もあった(図 1)。



40代男性モニター・S様の事例

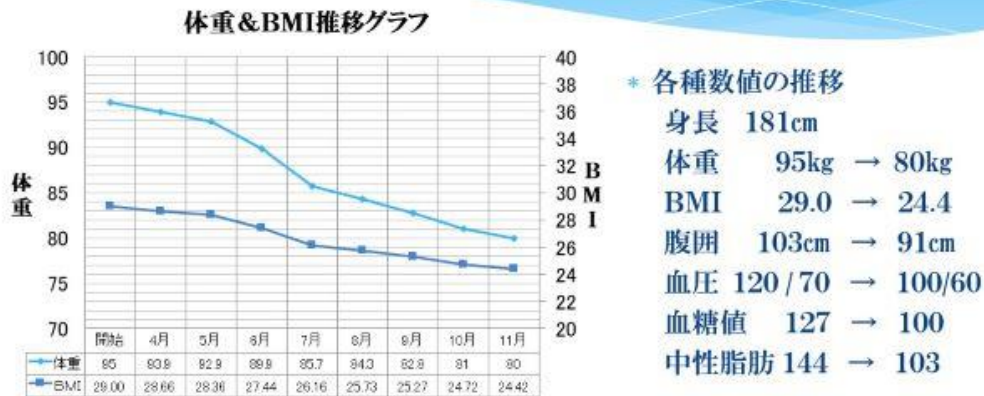


図1 ジルでの運動による各種数値の変化

4. 米沢市からの委託事業

これまで市で糖尿病予防の為に運動コースを行っていたが、専門的なスタッフと専門的な機材がある施設での実施が効果的であるという市の判断により民間に依頼されることとなり、多数ある運動施設からジル米沢が委託事業所として採択された。そして平成30年10月2日より、その事業が開始された。

対象者は、20人程度の3グループに分けられ、それぞれ週に1回で全8回、つまり約2ヶ月間、専門的な運動を実施する。

内容は、初回に体組成計にて現在の身体状況を測定し、2～7回は健康運動実践指導者からのスタジオでの運動指導・マシンを使った有酸素運動・健康講話を実施する。

測定結果や利用者の年齢・性別などから、その方に最も適した運動強度や運動頻度を専門的な視点から提供する。また、そのなかで同棟にあるデイサービス「スマート倶楽部」に在籍の管理栄養士から糖尿病に関する健康講話・食事管理なども実施し、運動面以外でも予防効果を高めるための内容も実施している。最終回は再度体組成計にて身体状況を測定し、運動前後での効果測定をする。



ジル米沢で運動することで天候に左右されない運動環境の確保ができています。また、トレーナーが最低2名は着くことで安全面に配慮ができていうえに、常に専門的なアドバイスを提供することもできる。スタジオでは家庭でできる運動としてストレッチや筋トレの指導を行った。また、運動を楽しんでいたように簡単なステップ体操やリズム体操も取り入れている。

ジル米沢で運動することで天候に左右されない運動環境の確保ができています。また、トレーナーが最低2名は着くことで安全面に配慮ができていうえに、常に専門的なアドバイスを提供することもできる。スタジオでは家庭でできる運動としてストレッチや筋トレの指導を行った。また、運動を楽しんでいたように簡単なステップ体操やリズム体操も取り入れている。

糖尿病に限ったことではないが、高齢になる前の段階で健康増進を推進し、運動習慣を身に付けることは、健康な体を維持することができ、医療費の削減にもなるうえに、将来的に介護認定を受けにくい状態になる。それだけでなく、運動という新たな習慣あるいは趣味を見つけることにより、当人の人生に生きがいというものが増加されると考える。

市との連携である事も加味すると、この事業を通じて我々の理念を幅広く啓蒙する大きな機会であると認識している。

経済産業省が掲げる「アクションプラン 2018」では、その方向性として生涯現役社会が謳われており、そのなかで「地域関係者等が連携したスポーツツーリズムの創出」というものがある。

市との連携・医療機関との連携を強固にすることで、ジル米沢が生涯現役社会の一端を担うための事業が今具体的に実施されているというのが現状である。



第 5 章

居宅介護支援事業所「かいごの窓口」

スマートライフ訪問介護事業所

1. 居宅介護支援事業所「かいごの窓口」

居宅介護支援事業所「かいごの窓口」は平成 28 年 1 月 1 日に開設し、現在は 3 名の介護支援専門員（内、2 名が主任介護支援専門員）（以下、CM）が在籍している。現在は契約者数で 83 名、利用実績数で 74 名の方がかいごの窓口を利用されている。

事業所の特徴としては、「行政を通しての依頼ではなく、直接事業所に相談がくる」というものを目指しており、現に行政や地域包括支援センター以外からの依頼もあり、利用者からの紹介というケースも出てきている。

また、利用者のなかには併設のデイサービス「スマート倶楽部」を利用している方もいるため、スマート倶楽部のスタッフとの密な連携も行われており、利用者あるいはそのご家族の希望に沿ったケアプランを、自立支援という視点を持ったままで提供することもできている。

リブウェルの入居者で介護認定を受けている方の中にもかいごの窓口を利用している方もおり、併設の同法人内の事業所ということもあって、こちらも密な連携を図ることができるため、入居者の安心にも繋がっている。

2. スマートライフ訪問介護事業所

スマートライフ訪問介護事業所は平成 30 年 1 月 31 日に開設し、常勤・非常勤合わせて 5 名のスタッフが在籍している。現在は 23 名の方がサービスを利用されている。

特徴としては、弊社の理念「役割と生きがいを想像する」を体現すべく、慣れ親しんだ在宅でよりよい生活していただくために、過介護はせず、その方の残存能力を活かし、さらにできることを増やすという考えのもとで在宅介護にあたっている。

訪問介護は施設サービスとは違い、常に周囲に職員がいる環境ではなく、利用者と 2 人だけというケースが多い。そのため、介護に関する知識・経験・技術を持ち合わせている必要がある。したがって、弊社においてはデイサービスで経験を積んだ職員のセカンドキャリアとしての役割も担っている。

また、こちらもちかいごの窓口・リブウェル・スマート倶楽部に共通の利用者あるいは入居者を担当しているケースもあり、いち早い情報の共有と的確なサービスを展開することができる。

第 6 章

これまでの成果

1. 事業所ごとの成果

改めて、弊社の理念は「役割と生きがいの創造」である。この理念を体現するためには、従来の事業所とは異なる方法をとる必要がある。そのなかでも各事業所において特筆すべき先導性のある取り組みを改めてここに成果として記す(また、これまでの活動を振り返る上で有効と考え、補足資料としてスマートライフで毎月発行している会報誌を添付資料として提出する：03_スマートライフ会報誌)。

① リブウェルにおける3つの成果

リブウェルでは、入居者の方にセカンドライフとして人生を謳歌していただきたいという願いがあり、それが具体的な成果として現れたのが、1つ目は入居者がサ高住に入居しながらも就労しているという事例である。政府が掲げた「一億総活躍社会」は社会的包摂を謳っており、この事例にあるような高齢の方が生産性を生み出すことは、まさにこの考えに合致しているものと考ええる。

2つ目は、高齢者施設では実現が難しいイベントの開催である。入居者の尊厳を無視した画一的なサービスを実施するのではなく、入居者の希望や特徴を尊重したうえで「住宅」にしかできないイベントを開催することで、最期まで生きがいを持った人生を送ることができると思う。

それらをより高い質で提供するために、入居者懇談会を定期的実施しているというのが3つ目の成果である。できる限り入居者の希望を叶え、そして安心・安全で希望を持ったセカンドライフを送っていただくことに注力している。

② スマート倶楽部における3つの成果

スマート倶楽部においては、利用者に新たな、あるいは以前は持っていた役割を提供することができているというのが最も重要な成果であると思う。1つ目はサークル活動に対して利用者自身が主体性を持って取り組んでおり、自らの意思を持って実施している。利用者からサークル活動をさらに良いものにするために会社に対して要望が出て、それを稟議という形で進めていく、これはまさに一般の会社と同等の動きが出ているといえる。すなわち、デイサービスの中でしっかりとした社会性が形成されているということになる。

2つ目は、スマート倶楽部祭りでは利用者にも運営を協力していただき、焼きそばや焼き鳥の調理から販売まで利用者主導での動きがみられた。この疑似就労ともいえる活躍の場を体験した利用者からは満足感にあふれた具体的な言葉が聞かれた。

これらの成果により、介護認定を受けた方でもまだまだ活躍の場があると確信することができ、行政との連携を密にすることでこちらから行政に対する発信を進めているというのが3つ目の成果である。介護度を維持したまま、あるいは改善した際に、どのようにすれば活躍できるだろうかという命題のもと、社会的な資源を整備するということを目指して現在動き出している。

③ ジル米沢における3つの成果

ジル米沢では、社会に対する運動の推進やスポーツジムの利用を推奨することにより、高齢になる前段階での予防的な動きをとっているというのが先導的な成果として挙げられる。

1つ目は、企業に対して運動指導を能動的に実施していくことで、企業の生産性向上と職員の健康

増進を推し進めている事である。企業の生産性が上がり、その職員が健康になることは、GDP の向上や医療保険料の削減においても一番身近なきっかけになりうると考える。

2 つ目は、医療機関との連携である。疾患やけがを患ってない方にとって、予防的な運動や生活の改善は、自分自身で行わなければならない。そこでフィットネスジムのトレーナーがその機会を提供することで、スムーズに運動するきっかけを提供することができると考える。

3 つ目は、行政との連携である。これにより疾患の予防に対して直接的にアプローチできるということのみならず、運動の重要性を社会に幅広く啓蒙することができる。そしてそれは経済産業省の「アクションプラン 2018」の概念にも合致している。

2. 事業所間の連携による成果

弊社においては、5 つの事業所を運営しており、それらが連携を図ることで得られた成果があるので、ここではそれを記す。

① リブウェルとジルの連携

リブウェルの入居者には、介護認定を受けていない方やアクティブに活動している方も入居されている。そのなかにはジルを利用されている方がおり、積極的に運動を心がけておられる。目的は、ゴルフをするためという方もいれば、介護予防のためという方もいる。いずれにせよ、明確な目的・目標を持ったうえで運動に取り組んでおられる。いつまでも生きがいを持ったセカンドライフを送ってほしいというリブウェルの願い、運動から予防に対して取り組んでほしいというジルの願い、そしてそれを望んでいる入居者の目的が合致したからこそ、この連携が成り立っている。

② リブウェルとスマート倶楽部の連携

リブウェルの入居者で介護認定を受けている方で、スマート倶楽部を利用されている方がいる。介護認定を受けている方にとってスマート倶楽部を利用することは閉じこもりの防止としての機能もあり、また役割を持つことができる場でもある。スタッフ同士の連携や情報の共有も迅速かつ正確に行うことができ、リスク管理という側面においても効果的である。

また、スマート倶楽部在籍の理学療法士による健康体操をリブウェル内で週に 1 回実施しており、リブウェル全体の健康維持を図っている。

③ スマート倶楽部とジル米沢の連携

スマート倶楽部では、ジル米沢のトレーナーによる体操を週に 2 回実施している。運動のプロによる体操は、利用者からは、「一つ一つ気にかけてくれてありがたい。(スマート倶楽部の 2 階がジル米沢のため)上に行ってお礼言いたいくらいだ。」「すごくよかった、こういう運動続けられたらいいな」、「椅子に座っての運動だということで、そこまで大変でないかと勝手に思っていたが、意外とキツいもんだ。頑張って体力つけないと！」という声があがっている。

また、ジル米沢の階段を利用したリハビリや、体組成計を使用しての身体機能評価も行われており、デイサービスとフィットネスジムという、一見関連性のない事業所同士の連携も行われている。

第 7 章

現在の課題と今後の展望

1. 現在の課題

第6章にて述べたこれまでの成果とは別に、現在も何点かの課題がある。以下では、本事業申請時の事業概要とこれまでの成果を見比べての課題、運営を進める上で浮上した課題等を纏めていく。

① リブウェル内におけるコミュニティの形成と入居者の社会参加

平成30年10月現在で40名の入居者が暮すリブウェルでは、模様されるイベントや弊社内他事業所が提供するサービスを通して、個々人ごとの住環境を提供している。それにより「施設」から「住宅」への脱皮が図れているのは先に述べた通りである。一方あくまで個々の入居者が暮している状態は否めなく、そこに確固とした社会コミュニティは形成されていない。また、弊社で就労している入居者も成功事例として挙げているものの、まだまだ多数の入居者が地域社会との繋がりを強く形成できてはいない現状も伺える。

② 利用者がスマート倶楽部を卒業する為の取組

スマート倶楽部ではプレミアム運動コースなどを通して、自立を勝ち取る為のサービス提供を目指している。また、総合事業、通所介護をご利用の方にも『役割と生きがいを創造する』事で社会との繋がりが得て頂くことを目的としている。しかしながら、スマート倶楽部卒業後、またはスマート倶楽部利用日以外の日常の中に、社会との繋がりとそこから得られる役割と生きがいを提供できる仕組みは確立できていない。

③ 子育て支援事業への未着手

提案時に第一期計画に組んでいた子育て支援事業に関して未着手のままである。提案時は、高齢者とのシナジー効果や働きやすい環境の提供の為に、事業所内保育所や特徴を持った学童保育等の開所を目指していた。現在も子育て支援事業の開所計画は手放しておらず、これまでも上記の事業形態以外に屋内遊技場を含む様々な可能性を模索してきたが、収益性と財務的な懸念が残り、未だに具体的な計画を立てる事が出来ていない。

④ 収益性の確保・継続と財務体質の改善

営業開始から二年半が過ぎ、ようやくスマートライフ全体の事業収支がプラスになりつつある。ストック型のビジネスである事から、今後急激に積上げた実績が崩れる事は考えにくいだが、適切な事業収益を安定的かつ継続的に得るために、事業収入を更に一割程伸ばす必要がある。また、現在までの累積赤字を無くしていくと共に財務体質を改善する事も課題として残っている。

⑤ 弊社の運営する事業を通した社会生産性の改善

ジル米沢ではその事業を通して、利用者の健康面での維持向上を目指すとともに、将来に向けた健康被害の予防も促進している。そこから得られる結果は、社会生産性の向上に繋がるものと考ええる。一方、弊社が運営する他事業所は高齢者に対するサービスを主としており、それらサービスを通して間接的にも実質的な社会生産性の向上に寄与できていないと考える(自立度の改善や予防は今後のマイナスを減らすことには繋がるが何かを社会に産み出す訳ではない)。

2. 今後の展望

上記課題を踏まえ、ここではスマートライフが『役割と生きがいを創造する』という理念の基、今後取り組みしていく事柄とその展望に関して記載する。

① リブウェル内における自治会の形成

現在リブウェル内に自治会を形成してもらう事が出来ないかを模索中である。自治会ができる事により、リブウェルが提供できるものが「住まい」から「社会」へと変革していく事が狙いである。これによりリブウェル内での社会的コミュニティが形成でき、それに伴いそこには役割が生まれるものとする。結果として「1.①」の課題が直接的に解決できると共に、相互扶助と言う形が出来れば助け合いを通して「1.⑤」の課題にもアプローチできる。第2章で触れた入居者懇談会でも入居者様に自治会形成の提案をしているが、未だ結果には結びついていない。今後もアプローチ手法を工夫して、来年度には自治会を形成して頂けるようにしていく。

② 定期的なリブウェル入居者・スマート倶楽部利用者を主体としたイベントの開催

第3章で述べた「スマート倶楽部祭り」の様に、スマート倶楽部利用者が主体となったイベントを定期的に開催すると共に、リブウェル入居者にもそれらイベントに関わってもらいたいと考えている。スマート倶楽部利用者にとっては卒業後や利用日以外の社会参加を通じて「1.②」の課題解決に繋がると共に、リブウェル入居者へも社会参加の機会提供と言う意味で「1.①」の課題も併せて解決できると考える。

③ 更なる介護予防への取組とスマート倶楽部卒業後の役割の提供

第3章でも述べた通り、スマート倶楽部では今後も新たな介護予防の取り組みを模索中である。そのアプローチ手法に関しては様々な可能性が考えられるが、最終的にはその結果として、社会生産性の向上へと繋げていきたいと考えている。ここで言う社会生産性の向上とは、何かしらの形で高齢者が社会にアウトプットを出し続ける事が出来るようにすると言う事である。就労だけに限らず、ボランティアや相互扶助、家庭内での役目など、「役割と生きがいを創造する」事が最も効果的な介護予防になると共にスマート倶楽部卒業後の場の提供になると考える。以上が達成できれば「1.②」と「1.⑤」の課題解決に大きく貢献できると考える。

④ ジル米沢によるメディカルフィットネスジムとしての役割

第4章で触れた、ジル米沢による米沢市の受託授業の実施は、今後のジル米沢の方向性に一定の指針を与えたものとする。現時点で健康運動実践指導士の資格を取得したスタッフも在籍しており、今までよりもより踏み込んだ形で地域の健康増進に貢献し、それを新たな事業展開に繋げる事も可能だと考える。地域の健康増進を新たな事業にしていく事で「1.⑤」の課題にアプローチするだけでなく「1.④」で挙げた収益性の向上にも繋げることができる。

⑤ 新規事業への着手

「役割と生きがいを創造する」と言う企業理念の基、現在新規事業の展開を検討中である。事業内容としては障害者支援を考えており、発達障害に特化した就労支援事業所のフランチャイズへの加盟

を検討している。本事業の内容が弊社理念に合致するだけでなく、フランチャイズ展開をしている企業の考え方にとっても共感を持つことができた事が本件等に至った最大の理由である。更に、低コストで始められる事とその高い収益性も本事業に取り組む理由として挙げる事ができる。加えて、このフランチャイザーは子育て事業のフランチャイズも行っており、将来的にはそちらも視野に入れていく考えである。上記を踏まえれば、本事業への着手によって「1.③～⑤」の課題全てにアプローチする事が可能である。

3. 終りに

「役割と生きがいを創造する」という企業理念を掲げスマートライフを立ち上げてから既に四年以上の月日が流れた。今日に至るまでには幾度となく大きな困難にぶつかり、その度にスタッフに助けられてきた。事業立ち上げ当初は、弊社企業理念や「施設からの脱却」、「サークル活動」等、そのアプローチ手法ばかりに拘っており、どちらかと言えば、新しいアイディアを世に問う為に奮闘してたきらいがある。

現在、ようやく会社が軌道に乗り始め、この様な形で報告書を纏める事が出来るのを心から嬉しく思う。何より、どんなに辛い時でも「役割と生きがいを創造する」という企業理念を手放さないでここまでこれた事は奇跡としか言いようがない。今、思う事はここまで支えてくれたスタッフへの感謝である。

これからのスマートライフは「役割と生きがいを創造する」というテーマを試す会社ではなく、その理念の基で日々奮闘してれているスタッフの為に存在する会社となる。これからも仲間と共に、決して理念を手放すことなく事業を続け、より多くの社会課題に取り組んでいきたい。